

システム開発の現場力を磨く

日経

SYSTEMS

2008 1

特集

①

プロジェクトの 基盤を作ろう

キックオフまでに準備する 事・物・人

特集

②

開発現場で役立つ

デザインの鉄則

特集

③

知ってほしい

女性エンジニアの悩みと本音

[検証ラボ]

10G-iSCSI対応ストレージの性能

[プロダクト賢者の選択]

Webアプリ脆弱性検査ツール

[絵で見るテクノロジー]

ICタグ



人付き合いを避ける若手 タイプを知り孤立から救う



Q 周囲に心を開かない20歳代の部下が心配です。最低限のことしか話さず、ほかのメンバーとのかわりを避けているように見えます。特に反抗的な態度をとるわけではありませんが、上司としてどう接するべきか悩んでいます。(男性、40歳、プロジェクト・マネージャ)

最近、上司や同僚から距離を置き、職場での人付き合いを避けようとする若手エンジニアが増えています。そうしたエンジニアは、「他者報酬型」「自閉気質」「回避性パーソナリティ」という三つの性格タイプのいずれかであることが多いようです。

他者報酬型は、自分自身の価値判断より、上司や同僚といった他者の評価を優先する性格タイプです。このタイプの人には、周りの反応を気にするあまり自分らしさを表現することにちゅうちょし、人間関係をわずらわしく感じてしまうのです。

他者報酬型の部下に対しては、周囲の評価に依存せず気兼ねなく自分を表現できる「自己報酬型」に転換するよう手助けすることをお勧めします。具体的には、「この件について意見を聞かせてほしい」などと日常的に問いかけ、その部下が自分で考え表現するよう促します。こうした手助けは、そ

の部下が他人の目を過剰に気にすることがなくなり、職場での人付き合いを自然に受け入れるようになるまで、根気よく続けてください。

自閉気質は、自分の世界に没入し、他人とあまり交わろうとしない性格タイプです。このタイプの人には、周りに気を使わずマイペースで行動します。孤立しているように見えますが、自閉気質の人にとってはそれが好ましい状態といえます。こうしたタイプの人に職場での人付き合いを強要するのは、決して得策ではありません。

自閉気質の部下に対して上司がすべきことはむしろ、その部下が夢中になれる仕事を割り当てることです。このタイプは、自分から意見や要望を言い出すことはほとんどないので、上司のほうから作業の進捗状況や興味・関心を聞くといった工夫をしてください。自閉気質の人には、誰かと競い合う仕事は向かないことも考慮しましょう。

回避性パーソナリティは、「この人には好かれている」と確信できる相手としかかわれず、多くの人と接する場所や仕事を回避しようとする性格タイプです。このタイプは、「他人と比べて自分は劣っている」「自分には魅力がない」などと思い込み、常

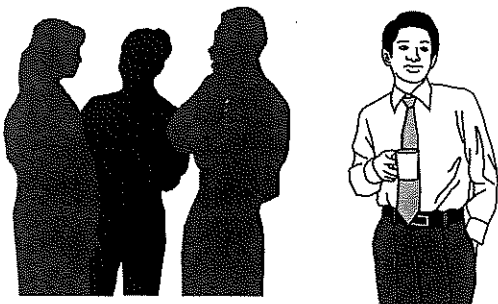
に緊張や不安を感じています。ひどいときは、「皆が私の悪口を言っている」「自分は無能だと思われている」といった妄想を抱いている場合もあります。

回避性パーソナリティである部下に対して上司がすべきことは、否定的な思い込みを取り除いてやることです。そのためには、その部下と1対1で話す機会を作り、どんな思いを抱えているのかをじっくり聞きます。このとき、批判的な態度や相手を否定するような言動は、相手の緊張や不安をさらに深めてしまうので禁物です。その部下のあるがままを受け入れるよう意識しながら、話に耳を傾けることが大切です。

その部下は、思いを言葉にして吐露することにより、自分の感情を客観視できます。その結果、思い込みを排除して周囲の状況を理解できるようになります。このため、それまでの緊張や不安を軽減して良好な人間関係を築けるようになります。ただ、ここまで至るにはそれなりの時間がかかります。上司は、焦らず見守ってください。☞

回答者：武藤 清榮 (むとう せいせい)

東京メンタルヘルスアカデミー所長。1974年東洋大学社会学部卒、76年国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)衛生教育学科卒。民間相談機関の「心とからだの相談センター」主任カウンセラー、サンシャイン医学教育研究所、秋元病院精神科カウンセラーを経て、現在に至る。著書に「人の話を聞ける人聞けない人」(KKベストセラーズ)、「雑談力」(明日香出版、監修)など



イラスト：木山 綾子